



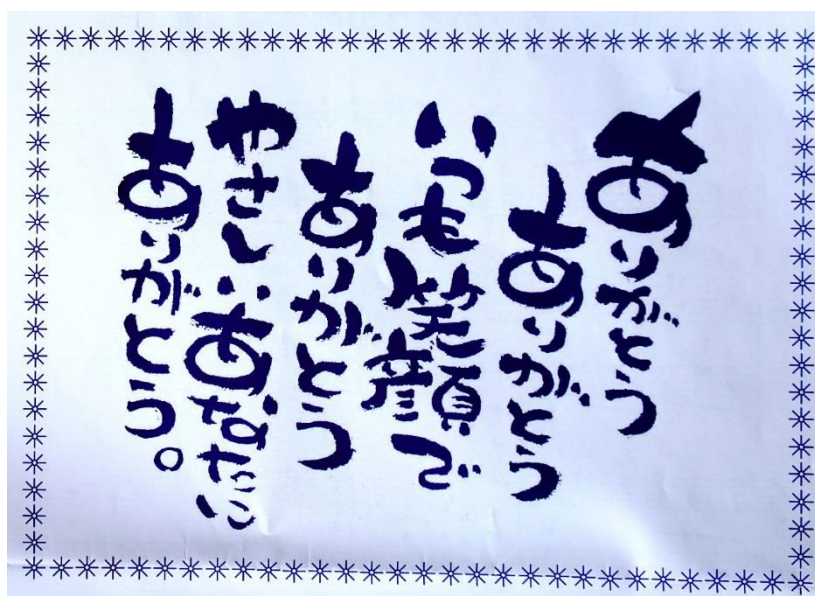
＜同志社人が母校を誇りに思える情報＞

「同志社ファン・レポート」
Ver. 2-032 号（通巻 263 号）

「同志社人・黒田功氏」
(同志社大学文学部、1962 年卒)



「日本一短いありがとうの歌」



この歌を作詞作曲した黒田功氏は、同志社大学を昭和 37 年文学部卒業。地元佐賀県鳥栖市で長年市議会議員を務められ、その間に「議員定数の削減」「財務調査費の透明化」等々鳥栖市に多大な貢献をされた。そのことから旭日双光賞を受賞されている

文化面では、鳥栖市文化連盟副理事長として、文化の向上に努められ、その一環として「ありがとうの歌」を作詞作曲されたのである。「ありがとう」を世界共通語にしようと「ありがとう連動の会」を結成。笑顔で触れ合いのある明るい社会づくり運動を広められた。

氏は同志社マンドリングクラブ出身で、ギターを携えて各地の老人ホームなどを訪問し、お年寄りを励まされていました。

日本一短い ありがとうの歌

作詞・作曲／黒田 攻
編曲／松本多時・手嶋昌子

Piano

あ

り が と う

り が と う

り が と う

さ し い あ な た に あ り が と う の 歌

さ し い あ な た に あ り が と う の 歌

り が と う

また、「世界中の人と人を信頼と満足でつないで、ありがとうを生み出していく」ことを実践して、世界中を感謝の気持ちでつないでいこうと頑張っておられた。

同志社大学に、このような先輩がいることを誇りに持ちたいものである。 ■